

岐阜県博物館

友の会報

岐阜県博物館友の会

〒501-3941 関市小屋名1989
岐阜県博物館内
TEL (0575) 28-3111
(内線331)
FAX (0575) 28-3110
印刷 株式会社 岐阜文芸社

「岐阜県博物館と私」

岐阜県博物館元館長 浅野 裕司



今回、この会報の原稿を事務局から依頼され何を書こうかと悩みました。私の在任中には目立った成果もなく、しいて言えばマイミュージアム棟の休眠化していた「マルチメディア工房」を撤去して、収蔵庫への転用工事を実施したことぐらいでした。ですから、思いつくまま当時の思い出等を記してみたいと思います。

今から十七年前の二〇〇九年三月の下旬、県教育委員会からの異動内示がありました。岐阜県博物館長兼岐阜県ミュージアムひだ館長という内示で、大変驚いたことを現在でも強烈に覚えています。単身赴任で勤務していた高山市内のミュージアムひだから、大垣市の自宅から通勤できる県博物館への転勤は、家族からは喜ばれました。けれども、冷静に考えてみれば高山での勤務も含まれているわけで、関市と高山市の二市を西濃の大垣市から通勤するという驚愕の内容でした。当時の県教育長に相談したところ、本務は県博物館だが最低週一回は高山のミュージアムひだ

に行ってくださいとの指示でした。そして四月から兼務館長の仕事が始まりました。原則として週の真中の木曜日を高山勤務としました。毎週その日は朝の四時半に起床して五時に大垣の自宅を出発し、高山のミュージアムひだに向かう日帰りの自家用車通勤を行いました。

片道約百六十キロ、三時間の道のりです。本務の県博物館までも片道三十七キロあり、一年間の移動距離だけで合わせて五十キロを軽く超えました。このハードな勤務を一年間何とか無事に終えられたのは、ひとえに家族と優秀な博物館職員の方々、そして関係者の皆様のご理解とご協力の賜物だとしみじみ痛感しています。特に関係者としては、博物館友の会が主催する正月恒例の「七草がゆ」は、友の会メンバーが準備段階から熟慮に熟慮を重ね、万全の体制で臨まれました。七草やお米の確保、調理配膳の準備、招待客の手配等、当日の役割分担に則りスムーズに実施運営されました。

中でも特に印象に残っているのは、当時の関市長さんが来館されて七草がゆを召し上がられていたことです。ご多忙にもかかわらず友の会メンバーからの招待に応えられ、「〇〇さんからの誘いはやっぱ断れん」と楽しそうに笑われていました。

この時、県博物館が関市に着実に存在している、関市から認められ愛されていると強く実感しました。開館以来地域に根ざした地道な活動を続け、博物館活動の力強い下支えをしていただいては友の会の存在は、県博物館にとって最高の相棒です。感謝です。

私は今、地元短期大学で非常勤講師として週一日勤めています。担当している講義の中に、博物館施設に関する内容もあり、県職員として勤めた博物館や美術館での経験や思い出を、若い学生の前で話しています。

現在の私と県博物館との関りは、二〇一六年から就任したマイミュージアムギャラリー展示計画懇話会委員を続けて務めています。

これからは、これまでに頂いた県博物館とご縁をより大切にしながら、今後の岐阜県博物館及び岐阜県博物館友の会の、益々の発展を心よりお祈りいたします。

豊臣秀吉と美濃

岐阜県博物館 学芸部 中川 創喜

岐阜の地は、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三人がそれぞれ統一権力を形成していく中で重要な役割を果たしました。およそ十年にわたり美濃を本拠地としていた信長が、天正10年(1582)に本能寺の変で倒れると、美濃を基盤の一つとして台頭の糸口をつかんだ秀吉が天下人への歩みを進めます。

本連携企画展では、NHK大河ドラマ「豊臣兄弟!」でも話題の豊臣秀吉の時代をとりあげ、岐阜県博物館が近年収集している織豊期文書や岐阜県歴史資料館が所蔵する古文書を中心に、秀吉と美濃国の関係をうかがう史料を展示します。

天正12年(1584)羽柴(豊臣)秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍が争った小牧・長久手の戦いの中で、西順寺(北方町)に対して発給された「羽柴秀長禁制」(岐阜県歴史資料館蔵)とそれを書き写して門前に掲示された制札「羽柴秀長禁制札」(当館蔵)はそれぞれの館に所蔵されており、本展覧会で同時公開します。また、天正17年(1589)に実施された太閤検地帳の写しである「濃州不破之郡玉村御検地帳之写」(当館蔵)や天明元

年(1781)に岐阜町の様子を描いた絵図「美濃国厚見郡岐阜絵図」(当館蔵)など、本展で初公開となる史料もあります。

この機会にぜひご覧下さい。

1 展覧会案内

会 期：令和8年2月14日(土)～3月29日(日)

開館時間：9:30～16:30 ※入館は16:00まで

休 館 日：月曜日

2/23(月・祝)は開館、2/24(火)休館

主 催：岐阜県博物館・岐阜県歴史資料館

2 会場

岐阜県博物館 本館4階 企画展示室

3 関連事業

(1) 講演会

「豊臣政権と美濃国」

講師：播磨良紀氏(中京大学名誉教授)

日時：令和8年3月1日(日)13:30～15:00

定員：120名

場所：岐阜県博物館
けんぱくホール

(2) けんぱく教室

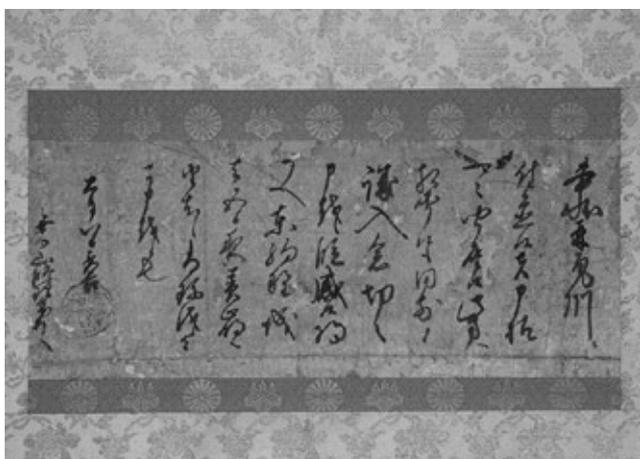
「太閤検地帳を読む」

日時：令和8年

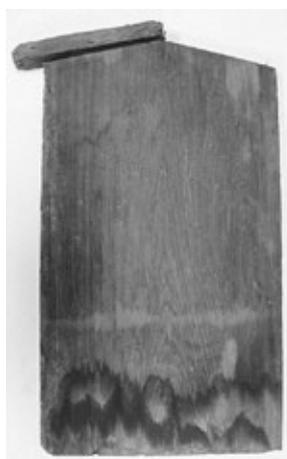
3月14日(土)

定員：30名

場所：岐阜県博物館
講堂



▲羽柴秀吉朱印状(当館蔵)



▲羽柴秀長禁制札(当館蔵)

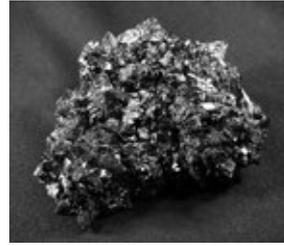
収蔵資料紹介

「岐阜県産鉱物」

岐阜県博物館 学芸部 武藤 正樹

岐阜県には、数多くの鉱山があり、かつては様々な鉱石を採掘していました。スーパーカミオカンデやハイパーカミオカンデで知られる岐阜県飛騨市の神岡鉱山もその一つです。奈良時代に起源をもち、鉛や亜鉛の鉱山として栄え、規模や生産量から東洋一と呼ばれた鉱山でした。飛騨市神岡鉱山は、約2億5千万年前にできたとされる飛騨片麻岩のうち、結晶質石灰岩と火成岩起源の熱水の接触交代作用によってできたスカルン鉱床です。今回は神岡鉱山産の鉱物を2点紹介します。

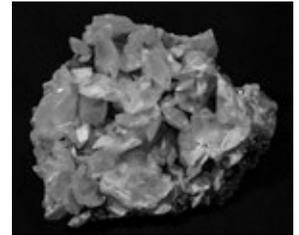
◆閃亜鉛鉱【 Sphalerite 】ZnS



亜鉛の硫化物で、亜鉛の主要鉱石です。鉄をほとんど含まないものは黄～黄緑色、鉄が多くなるにつれて黒色になります。

◆方解石【 Calcite 】CaCO₃

方解石は、炭酸カルシウムから成る鉱物です。透明から白色で、閃亜鉛鉱や方鉛鉱などと共生し、菱面体や板状、塊状、鍾乳状、犬牙状など、様々な結晶の形があります。紫外線を当てると発光するものもあります。



収蔵資料紹介

歌川貞秀「宇治川先陣争図」

岐阜県博物館 学芸部 佐竹 祐佳

正月から1ヶ月が過ぎましたが、今年の干支「午」にちなんで錦絵を紹介します。本図は、『平家物語』の一場面「宇治川の先陣争い」を描いた錦絵です。

源平合戦の最中、源義経は、源頼朝の命を受け、乱暴狼藉を働く木曾義仲を追討するため、京を目指していました。しかし、義仲によって、宇治川の橋が壊されていたため、川を馬で乗り入れる必要がありました。そこで名乗りを上げたのが名馬「いけづき」に乗った佐々木高綱と、同じく名馬「するすみ」に乗った梶原景季でした。

この戦いの前、景季は、主君・源頼朝に名馬として名高い「いけづき」を所望しましたが、頼朝はそれを断

り、代わりに「するすみ」を与えました。しかし、後から来た高綱が、同様に「いけづき」を所望すると、頼朝は「いけづき」を高綱に与えました。

戦いの道中、景季は、「いけづき」に乗った高綱を目にしました。自身が頼朝に所望した際には断られた名馬が、高綱に与えられたことに憤りました。このような経緯から、両者の間に因縁が生じ、どちらが先に川を渡って名乗りを上げるかの「先陣争い」につながります。

先陣争いで先に前に出たのは「するすみ」に乗った景季でした。出遅れた高綱は、景季に「馬の腹帯がゆるんでいるぞ」と声をかけました。景季が帯を締め直そうとした隙について高綱が追い抜き、見事先陣の名乗りを上げました。

この話を知ったうえで本図を見ると、単に迫力満点な武者絵というに留まらず、景季を追い抜いてどこか得意げな表情をする高綱(画面手前)や、腹帯をつかみながら悔しそうに高綱を睨む景季(画面奥)など、細部にまで着目したくなります。

余談ですが、景季が乗った「するすみ」は、一説によると郡上市明宝とされ、宇治川の戦いの他にも、景季の愛馬として様々な戦いで活躍したとされます。道の駅明宝(磨墨の里)には、「するすみ」に乗った景季の像が鎮座しています。



▲歌川貞秀「宇治川先陣争図」

岐阜県博物館との50年 ①

元岐阜県博物館フレンドの会・友の会 千藤 弥生

その時、私は15歳だった。

1976年(昭和51年)5月5日朝、この日開館した岐阜県博物館の入館券売窓口の長い列に、私は家族と共に並んでいた。父が「岐阜県関市に新しい博物館ができたから、見に行こう」と連れて行ってくれたのだ。

入館してびっくり、自然と人文の両方の展示がある。今でいう「理系女子」の私は、岐阜県の自然(地質・生物など)の全てを見られてうれしかった。両親と妹は、関ヶ原合戦の有様を電光で示す展示に驚いていた。動物の生態や自然を扱う番組が好きで、司馬遼太郎の作品等を読む歴史好きの父は、両方の展示が見られて喜んでいて。母は、「育った家を思い出す」と、昔の道具・農具類に興味を示していた。さらに、建物内だけでなく「自然観察のこみち」と名付けられた裏山が、生きた展示になっていることに感動し、みんなで登り、春の自然を満喫した。楽しい思い出として、心に残っている。

私が通っていた高校では、1年生の理科で生物と地学を学んでいた。地学では、岩石を構成する粒の粗さ・細かさや、透明または白い部分と、色の濃い部分の割合が、種類を分ける際大切なのだが、授業で用いていた資料集の美しい写真では、分かりにくかった。本物の岩石が見たい…そうだ！岐阜県博物館に展示されていたじゃないか！それも、ケースの中ではなく間近に見えて触れるところに…。その週末、教科書、資料集、ノート、筆記用具を持って、家の近くに乗車場があった美濃町線に乗り、「小屋名」の駅に向かった。美濃町線のガタタンガタタンという心地よい揺れと、車窓からののどかな景色を楽しみつつも、「本物の岩石で学べる」というワクワク感で心はいっぱいだった。小屋名の駅からの距離も、きつい坂道も気にならなかった。入館し、岩石の展示コーナーへ、まっしぐら。表面はつるつるに磨かれており、どんな鉱物が含まれているか、見て分かりやすい。しかし、磨かれていることで、鉱物の体積的割合や何より手触りが分からない。磨かれていない個所を見たい！触りたい！博物館では、押すボタン等触ってよいとこ



ろ以外は、触ってはいけないんだっけ…でも、目的があって来たのだ。触ってよいかどうか、聞いてみよう。館内にみえた職員の方に、来館した目的を話し、「展示されている岩石の、表も裏も触りたいのです。そして、スケッチさせてください。」ドキドキしながら、お願いした。「どうぞ思う存分触って、学んでくださいね。」なんともうれしいお返事。「ありがとうございます！」

岩石の手触りは、種類によって全く異なっていた。岩石全体の結晶がとて細かいもの。一部の結晶は細かく尖っているが、他の部分は広くざらついているもの。また、透明または白い結晶部分の大きさは、岩石によって異なることに気づき、定規で測ってみた。「この白い結晶、写真では小さくつるりとしているけれど、展示されている岩石では7mm四方もある。岩石のでき方で結晶の大きさが違うから、そのためなのかな？」など、新たな疑問がわいた。さらに、「日本最古の石(※)『飛驒片麻岩』(花崗片麻岩の礫)とは、これなのか。それにしても、最古かどうかを、どのように調べるのだろうか？こういう疑問に答えてくれる人が、今ここに

てくれたらうれしいけど、自分で調べるのも楽しいから、疑問点はメモしておこう。」触れさせてもらった岩石の表裏をスケッチし、床に座って気づいたことや疑問点を記入しているうちに、入館後3時間ほど経っていた。楽しくて面白くて、時間が経つのを忘れていた。初めて経験した「博物館

で、博物館に展示されているものを使って学ぶことの楽しさ」は、50年経った今も忘れられない。

こうして、岐阜県博物館との50年にわたる「お付き合い」が始まった。

※1970年に発見された岐阜県七宗町の花崗片麻岩の礫(飛驒片麻岩)は約20億年前のもので、当時は、日本最古とされていた。2019年、島根県津和野町で、約25億年前の片麻岩が発見されたことで、「最古」は更新された。今では、七宗町・津和野町の両方に「日本最古の石博物館」がある。

会員の声

新オペラ貞奴が新たに描くもの② ～ 福澤諭吉と伊藤博文 ～

創作オペラ「貞奴」プロジェクト事務局長 藤田 敦子
岐阜県博物館友の会

今年には川上貞奴没後80周年である。8月30日(日)に各務原市のプリニーの市民会館で、「新オペラ貞奴」を岐阜県教育文化財団と共催で初演する。タイトルは「新オペラ貞奴—すべては誠をもって—」とし、時代とともに生き、次代へ繋いだ貞奴さんの心に触れていく、という思いで制作している。また、今回、新たな試みとして電子チケットを導入する。オペラ貞奴は高齢者の来場も多く、悩んでいたが、NTTドコモグループの株式会社teketの提案を受け、思い切ることにした。

さて、前号に続き、「新オペラ貞奴」の新しいトピックを紹介する。福澤諭吉と伊藤博文である。「今さらどこが新しいの?」という声が聞こえそうだが、貞奴と福澤(旧姓岩崎)桃介との関係が絡むと、少し話が変わってこよう。田舎の期待を背負う苦学生の桃介と芸者見習いの貞奴の淡い初恋は、福澤諭吉が桃介にアメリカ留学と二女ふさとの縁談・婿養子を申し出て終わる。ここまではよく取り上げられる。だが、桃介が諭吉の創設した慶應義塾の優秀な学生で、貞奴が芸者置屋を営む養母亀吉と繋がり深い伊藤博文の後ろ盾を早くから得ていることを考えると、単純な話ではないように思われる。

明治10年代、政府内で伊藤博文と大隈重信との間がぎくしゃくし始める一方、大隈は諭吉と親交を深めていた。また、国会開設や憲法制定などの議論も盛んになる中で、諭吉の考えを入れた大隈の意見書が急進的だとして、「急ぐべきでない」とする伊藤との間に亀裂が入る。明治14年、北海道開拓使官有物払下げ事件(五代友厚への格安の払下げを大隈や諭吉らが新聞社にリークしたとして大隈排斥に繋がる事件)が起こり、政府内で諭吉派の影響が徹底的に排除された。伊藤博文と福澤諭吉は対立関係にあったのだ。このような情勢の中で貞奴と桃介は出会った——そんな時代の空気感も、新しいオペラ貞奴の中に取り込んでいく。チケットの発売は5月16日(土)。



■画像:福澤諭吉(1891頃)と伊藤博文(1900) Wikipediaより

会員の声

70の手習い(その後)

岐阜県博物館友の会 兼松 克己

前回、恐竜学検定を受ける話を書きました。その後3ヶ月間の学習を経て9月28日に名古屋の会場で受験しました。3つの教室に分かれて午後からの本番です。予想どおり男の子(小学校低学年)がいっぱいでした。その中で白いあごひげをはやしたおじいさんがいたら、それは私です。初級の受験時間は全100問で1時間、マークシート式の4択問題です。総論から各論までまんべんなく出ていました。勉強のよりどころは学習研究社の恐竜学検定公式ガイドブックと図鑑(これは孫から借りました)。もちろんけんぱくの『みんなの恐竜学』も参考にしましたよ。なかにはこんな問題もありました。コエロフィシスのおとなの全長は?

8m、10m、1m、3m 正解は…

さて、70すぎてなぜ恐竜か、という疑問に答えます。

日常生活に刺激がほしい

学ぶことに遅すぎることはない

恐竜の絶滅から人類の未来を考える

自己満足を得たい

正解は全てです。

この勉強をしたおかげで、先日福井の恐竜博物館にも行きました。おまけにあわら温泉でまったりした時間を過ごすことができました。和田秀樹の本『60歳からはやりたい放題』にならって70歳からはもっとやりたい放題でいこうと思っています。



▲恐竜博物館チケット

▲恐竜博士と筆者

友の会事務局からのお知らせ

★令和7年度後期友の会の主な活動について

- 秋季理事会の報告
10月8日(水)に開催され、①令和7年度会務中間報告、②一般会計・特別会計中間報告、③後期の会務、について報告、承認していただきました。
- 探訪委員会
- 会長・副会長会議 3月12日(木)

★友の会報144号の訂正

- 7ページ 本文14行目
「寛永通宝」とありますが、正しくは「永楽通宝」でしたので訂正します。

「クリスマスナイトミュージアム」を 開催しました

岐阜県博物館 学芸部 星野 友多

12月6日(土曜日)に、年に一度の大人気イベント「クリスマスナイトミュージアム」を開催しました。参加者は閉館後の博物館に集合し、ライトアップされた幻想的な展示物に囲まれながら、様々なプログラムに挑戦しました。



プログラムは「サンタクロースのウルトラクイズ」「星空観察会」「クリスマスランタンづくり」「トナカイの写真撮影会」の4種類です。参加者は自由にプログラムを組み立てながら楽しんでいました。

特に人気だったのは「サンタクロースのウルトラクイズ」です。サンタクロースに扮した学芸員から、展示に関する問題を渡された参加者は、暗闇の中、懐中電灯を頼りに「ライトを当てると青く光る石はどこだ?」「ティラノサウルスの歯は何本?」といった問題に挑戦していました。



本イベントは来年度も開催予定です。友の会の皆様におかれましても、ぜひご参加いただくと幸いです。

マイミュージアムギャラリー 第7回展示

「魅惑のにゃんこ展—アールヌーボーの美学—」

令和8年2月7日(土)~3月8日(日)

岐阜県博物館 学芸部 佐藤 裕泰

令和7年度の第7回目は、前田健登さんによる「魅惑のにゃんこ展—アールヌーボーの美学—」を開催します。

前田さんは、「アールヌーボーアート」から「コミック調アート」に至るまで、幅広いジャンルのアートに携わり、年間300以上の作品を手がけられています。

本展示では、「あなたの推しにゃんこにきっと出会える!」をテーマに、会場内には100匹以上のにゃんこアートが並びます。どのにゃんこも、その特有のしなやかな曲線美を最大限表現するために、徹底的にアールヌーボーのスタイルで描かれています。

あなたの日常に寄り添うにゃんこを探しに来ていただくとともに、自由を愛するにゃんここと優雅な曲線が織りなす秩序の結晶である「アールヌーボーアート」との調和を、どうぞご覧ください。

